



北陸地域の概要 (2026年5月調査)

一般財団法人 北陸経済研究所
調査研究部 主任研究員 田中 秀和

景気の現状判断 観光や飲食関連の需要が高まるも、中東情勢の影響は拡大傾向

現状判断指数(DI)は前月から4.1ポイント上昇の44.2となった。上昇要因としては、「ゴールデンウィーク期間は、旅行や外食を控える傾向もなく、消費者は活発に動いていた(一般レストラン)」、「宿泊部門はインバウンドを中心に堅調に推移している。宴会部門は3~4月は大型宴会が少なく厳しかったが、今月は順調に予約が入っている(都市型ホテル)」とゴールデンウィーク期間も含めた観光や飲食関連などでの好調さがあげられる。一方で、「メーカーの価格改定により値上げが頻繁にあり、消費者が買うのをためらっている(一般小売店[事務用品])」、「中東情勢の影響により、値上げとともに仕入先から入荷しにくい物が増えてきている(乗用車販売店)」、「ナフサ不足の影響により様々な材料が足りておらず、建築現場で遅れが出始めている。また、価格高騰により消費者が買い控えをしている(プラスチック製品製造業)」と中東情勢の影響が物価上昇、商品や材料仕入れの停滞につながっているとの声が多くみられた。

景気の先行き判断 中東情勢の影響が続き、更なる物価高や仕入れの停滞が懸念材料

先行き判断指数(DI)は前月から0.1ポイント下落の36.1となった。「欧米圏からのインバウンドは今後も安定して見込めるほか、中国からのインバウンドの回復も本格化しつつある(商店街)」と観光関連で期待の声があがる一方で、「中東情勢の報道や止まらぬ物価上昇から、じわじわと生活防衛に走る客が増えている(コンビニ)」、「広範囲で多品種の値上げが行われるため、販売量の減少やディスカウント店への客の流出を懸念している(スーパー)」、「取引業者からの値上げ交渉が増えている。今後は中東情勢の影響による販売価格への転嫁が顕著になるとみられる。客の購買意欲にも間違いなく悪影響を与えると考える(住宅販売会社)」と中東情勢の影響は長期化し、更なる値上げが消費マインドを冷やすことを懸念する声が多くみられた。また、「中東情勢の影響により派遣先企業の生産量が減少し、新規派遣依頼数の減少や中途解除が出始めている(人材派遣会社)」など、企業活動や雇用にも影響が出ているとの声もあった。

図1 景気の現状指数(DI)の推移[季節調整値]

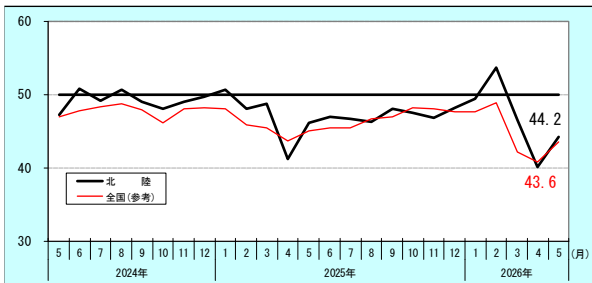
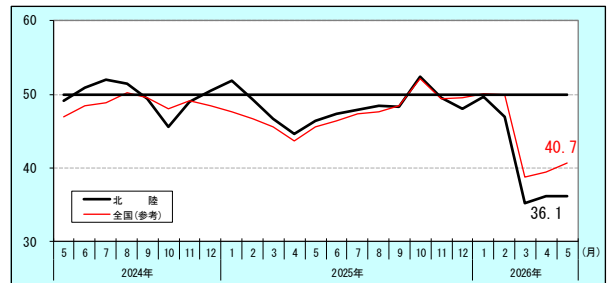


図2 景気の先行き指数(DI)の推移[季節調整値]



●5月のアンケート内容

調査期間：2026年5月25~31日
調査対象：合計100名(うち回答者91名)
(内訳)
・家計動向関連
・企業動向関連
・雇用関連

●景気の判断指数(DI)の算出方法

景気の現状や先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。(良い=+1、やや良い=+0.75、変わらない=+0.5、やや悪い=+0.25、悪い=0) DIが50の場合には、景気は「横ばい」、50を超えると「改善」、50を下回ると「悪化」を示す。

内閣府「景気ウォッチャー調査」は景気の動きを敏感に観察できる立場の2050人を対象に全国12地域で毎月実施され、北陸地域では当研究所が100名を対象に調査している。本誌の北陸地域の概要は当研究所の責任で取りまとめたものである。なお、調査内容は内閣府のホームページで毎月第6営業日に公表されている。

※ 詳細は2026年6月24日発行の「北陸経済研究2026年7月号」をご覧ください。

〈景気の現状に対する判断理由（3カ月前と比較して）〉

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	◎	商店街（代表者）	単価の動き	・売上が前年同月比で約50%増加し、極めて好調である。特筆すべきはインバウンド需要の劇的な拡大である。一時期は落ち込んでいた中国からのインバウンドによる免税売上が前年比で約3倍に急回復したほか、ドイツや米国を中心とした欧米圏の富裕層による高額品の購入が急増し、免税総額は前年の2.6倍に達している。また、国内観光客の購買意欲も衰えておらず、高単価な伝統工芸品の需要が国内外で同時に高まっている。特定の国に依存しない多極化により、過去最高水準の景況感となっている。
	○	家電量販店（本部）	販売量の動き	・本格的な夏の到来が直前であることと、新たな省エネ基準に改定される前の需要の高まりにより、エアコン購入台数が例年と比較して大幅に増加している。
	○	乗用車販売店（経理）	販売量の動き	・新型車の登場や環境性能割廃止の効果により、販売量は計画より上振れている。
	○	一般レストラン（統括）	来客数の動き	・中東情勢や円安傾向などにより良くない経済状況が続いているが、一旦は落ち着いている様子である。特にゴールデンウィーク期間は、旅行や外食を控える傾向もなく、消費者は活発に動いていた。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊部門はインバウンドを中心に堅調に推移している。宴会部門は3～4月は大型宴会が少なく厳しかったが、今月は順調に予約が入っている。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・5月前半は、ゴールデンウィークの影響により観光客が多く盛況であった。その後は、ゴールデンウィークを避けて観光に来る人もみられ、まずまずよい状態である。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・ゴールデンウィーク明けは、天候が安定していたこともあり、前年と比べて平日の出入が多かった。暑い夏を予想している洋服店では、夏服やそれに合わせた靴を購入する来街者が目立つ。また、最近では宝飾店で品定めをするインバウンドもよく見かける。
	□	一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・ギフトなどの大口注文が減っている。豚肉や鶏肉など安価な商材の動きは非常に活発だが、牛肉の動きが少し悪く、良いか悪いか分からない状況である。
	□	スーパー（仕入担当）	来客数の動き	・ナフサ関連による価格上昇に伴い、様々な物の値上げが控えるなか、現状は大きな来客数の減少がなく安定している。駆け込み需要を含んでいる可能性があり判断できないため、動向を注視している。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価高が続いていることから客の節約志向は強く、必要な物だけを買って求めている。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車の販売量が引き続き少ない。新車購入に対して慎重な様子は変わらない状況が続いている。物価高などの報道が毎日続いていることも一因とみている。
	□	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・比較的高価格帯の商品の動きが少し増えたことにより売上を維持しているが、低中価格帯の動きが鈍いため増加には至っていない。
	□	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・5月はゴールデンウィークの日並びがよく、例年並みの集客ができています。
	□	美容室（経営者）	単価の動き	・来客数の減少を客単価で補っている。来店サイクルの長期化が大きな原因である。
	▲	一般小売店〔事務用品〕（店長）	来客数の動き	・メーカーの価格改定により値上げが頻繁にあり、消費者が買うのをためらっている。また、ディスカウントストアの影響も大きいとみている。
	▲	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・ファッション関連の販売量や売上が低調であり、季節の二季化により春物の動きが鈍い。また、中東情勢や物価高などの影響により、食品以外の商材に対する購買意欲は高いとはいえない。一部の富裕層には株価と連動した動きがあるものの、全体としては悪くなっている。
▲	スーパー（役員）	単価の動き	・中東情勢の影響により、包装資材や消耗資材の値上げを受け入れた。価格転嫁するのは一部で、全てをできるわけではない。また、一部地元業者の倒産や廃業が増えている。	
▲	コンビニ（店長）	お客様の様子	・ふらっと立ち寄って買物をする客が減り、必要な物、目的の物を目指して買物をする客が増えている。目当ての商品が店頭にないと、何も買わずに退店することも多い。	
▲	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・物価が上昇すると購買数が減り、景気が減退する。特に生活に直接影響しない衣類の購買は当然控えめになっている。	

(－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	▲	乗用車販売店 (総務担当)	それ以外	・中東情勢の影響により、値上げとともに仕入先から入荷しにくい物が増えてきている。
	▲	都市型ホテル (役員)	来客数の動き	・旅行会社からの団体客は好調だが、ビジネス利用を中心に個人客の前年割れが続いており、客室数は前年並みとなっている。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・インバウンドの利用や県民の夜間飲食が減少し、利用客の動きが悪い。
	▲	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・同業者からは、中東情勢の影響により多少の駆け込み受注があったと聞かすが、当社ではその伸びはみられない。
	×	商店街(代表 者)	競争相手の様子	・百貨店、ショッピングセンター共に空き店舗が増加している。物価は上昇しているが、売上は上がらず、早期の割引セールやポイント還元などが乱発されている。
	×	一般小売店〔書 籍〕(従業員)	販売量の動き	・5月に入ってから販売量の落ち込みが激しい。
	×	その他専門店 〔酒〕(経営 者)	販売量の動き	・全ての業種で値上げが止まらなくなっており、消費者の目線は酒類に対して非常に厳しくなっている。
企業 動向 関連	◎	－	－	－
	○	*	*	*
	□	電気機械器具製 造業(営業担 当)	受注量や販売量 の動き	・車載関係を中心に受注量が上向きになっており、量産品に関しては目先良好な傾向にある。しかし、新規案件は引き合いはあるものの、2～3か月先に確実に金型や設備製作の動きがみえているものは少ないため、先々の受注傾向は余り良い状況ではない。
	□	建設業(経営 者)	受注価格や販売 価格の動き	・年度末のため3～4月の完成工事高は高かったが、中東情勢の影響により主要材料であるアスファルト合材価格が上昇している。
	□	不動産業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・同業者からは活発な話を聞かない。また、問合せも少ない状況である。
	▲	食料品製造業 (経営企画)	受注量や販売量 の動き	・能登半島地震の傷がまだ癒えず、震災前の売上を大きく下回って推移しているところ、中東情勢によるナフサ由来の包装資材価格の高騰などもろもろのコストアップが重なり、業績が好転する兆しがみえない。
	▲	繊維工業(総 括)	受注価格や販売 価格の動き	・中東情勢の影響により、主原料である石油由来の糸や燃料油などあらゆる原材料価格の高騰が続いており、全て価格転嫁をすることは難しい。また、溶剤やこん包資材などの調達が困難になっており、調達できないと稼働停止せざるを得なくなる。
	▲	プラスチック製 品製造業(広 報)	それ以外	・ナフサ不足の影響より様々な材料が足りておらず、建築現場で遅れが出始めている。また、価格高騰により消費者が買い控えをしている。
	▲	金融業(融資担 当)	取引先の様子	・中東情勢の影響により、石油関連製品の価格が高騰している。近年、各業界で値上げや価格転嫁を許容する雰囲気醸成されており、値上げの影響による販売量の落ち込みは限定的である。しかし、シンナーに代表されるように、一部資材自体が不足する懸念が現実となりつつある。
	▲	税理士(所長)	取引先の様子	・5月は3月決算の申告月であるため、様々な業種の決算を見ている。3月までは売上、利益とも良かった会社も、中東情勢の影響により物資が入ってこないという状況に陥っている。
×	－	－	－	－
雇用 関連	◎	－	－	－
	○	*	*	*
	□	人材派遣会社 (営業)	求人数の動き	・ゴールデンウィークなどの長期休暇や新入社員採用から漏れた対象者の求人を期待したが、想定より少ない。また、中東情勢の影響による新規受注の減少などが始まっている。
	□	民間職業紹介機 関(経営者)	求人数の動き	・中小企業を中心に人手不足感が強い傾向は変わらない。業種により求人数の増減はあるものの、全体の傾向としては大きな変化はみられない。
	▲	新聞社〔求人広 告〕(営業)	それ以外	・中東情勢の影響が広範囲に広がり、各種費用が実際に増えていたり、増える見込みだったりすることに伴い、支出を減らそうとする動きが顕著になっている。
	▲	学校〔大学〕 (就職担当)	周辺企業の様子	・求人を依頼する企業から、最近では原材料費、燃料費の高騰や調達困難などで苦労しているとの話をよく聞く。
×	－	－	－	－

〈景気の先行き（2、3カ月後）に対する判断理由〉

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	◎	－	－
	○	商店街（代表者）	・欧米圏からのインバウンドは今後も安定して見込めるほか、中国からのインバウンドの回復も本格化しつつある。現在のインバウンドの多様化と、根強い国内の観光、贈答需要が維持されることで、今後数か月は高い売上水準を継続できるとみている。
	○	コンビニ（店舗管理）	・食料品の値上げを実施する予定である。原価高騰分を価格転嫁し、利益を確保する。この状況においての値上げは客の理解も得られると考える。
	○	乗用車販売店（経営者）	・自動車メーカーは各社2～3か月先に新型車投入を予定していることから、購買意欲が高まるとみている。
	○	タクシー運転手	・初夏に入り観光客も人出も増え、また、タクシー運賃が改定になることから、売上が良くなると考える。
	□	百貨店（売場主任）	・猛暑のため外出を控える動きが近年は加速している。加えて、中東情勢が不安定であり、物価高騰も当面は続く見込みであることから、景気が良くなる条件が見当たらない。
	□	家電量販店（本部）	・エアコン販売台数の大幅な増加は一時的な需要であり、家電製品全体の動きは堅調に推移するとみている。
	□	乗用車販売店（経理）	・新型車登場と環境性能割廃止の効果は、しばらく続くともみられる。
	□	住関連専門店（役員）	・多少は物価高に慣れた消費傾向であるが、耐久消費財や趣味関連商品の消費は後回しになっている。
	□	その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	・原油価格の高騰やコストの負担増加が商品価格に転嫁され始めている。個人消費全体としては落ち込みがみられるものの、お盆等の長期休暇時には「安近短」がより顕著になると想定されるため、来客数の動きは今月同様とみている。
	□	都市型ホテル（役員）	・ビジネス利用を中心に個人予約の入込が弱く、前年と比べて稼働率は低下するとみている。
	▲	一般小売店 [精肉]（店長）	・6～7月に入ってくるお中元用ギフトの動きは鈍くなり、やや悪くなるとみている。
	▲	一般小売店 [事務用品]（店長）	・今後は価格改定により大幅な値上げが予定されている。また、需要がある商品はメーカーからの供給が追い付かず、売り逃しが懸念される。
	▲	百貨店（販売担当）	・一部の富裕層の購買は好調ながら、消費を抑制する富裕層も出てきた。一般客については、シールや韓国化粧品などのコンテンツ限定品や低単価の流行品に客が集中するが、目的以外の購入は少なく、日々の売上拡大や購買率上昇につながらない。夏季の長期化に伴い商品単価が下落していることと、高単価化粧品の人気に少し陰りがみられることから、僅かな売上減少傾向が続くとみている。
	▲	スーパー（仕入担当）	・ナフサ関連による価格上昇に伴い、様々な物が確実に値上げされる。広範囲で多品種の値上げが行われるため、販売量の減少やディスカウント店への客の流出を懸念している。
	▲	コンビニ（店長）	・中東情勢の報道や止まらぬ物価上昇から、じわじわと生活防衛に走る客が増えている。消費税減税の話も出ているが、まだ先の話であり、消費マインドにポジティブな変化は見込めない。
	▲	家電量販店（店長）	・エアコンの新たな省エネ基準への改定と中東情勢の影響による駆け込み需要により今月の実績は好調だが、今後の納期遅延や部材不足による工事等の遅れを心配している。
	▲	乗用車販売店（総務担当）	・今後は中東情勢の影響により欠品する部材が増える可能性が高まっており、販売に対する納期の長期化や販売不可になるものが出るかとみている。
	▲	高級レストラン（スタッフ）	・中東情勢の不安定な状況が続いており、仕入価格の高騰や建設業からの団体予約にマイナスの影響が出ている。
	▲	観光型旅館（経営者）	・中東情勢の影響による急激なインフレに伴い、仕入価格の上昇や経費の増加、夏の猛暑による旅行控えなど、不安材料が多い。
▲	都市型ホテル（スタッフ）	・製菓部門の包装材が入荷しなくなってきた。加えて、あらゆる仕入価格が更に値上がりするという話を現場から聞くが、これ以上の価格転嫁は難しく、収益に相当影響すると危惧している。	
▲	タクシー運転手	・物価の上がり方と賃金の上がり方が比例しておらず、金を使おうとしない人が増えているため、景気は良くならない。	
▲	テーマパーク（役員）	・インバウンドや団体客の予約状況が、前年と比較してやや厳しくなっている。	
▲	住宅販売会社（従業員）	・能登半島地震の被災地での新築受注は一巡し、今後の方針について悩んでいる人が多くなっている。加えて、他地域の商談件数も減少しており厳しい状況である。	

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	▲	住宅販売会社（従業員）	・中東情勢の影響に加え、金利が上昇しており、住宅価格にも影響すると考える。
	×	商店街（代表者）	・再開発ビルの空き店舗は埋まりつつあるが、飲食店が多く、昼間は閉店している店舗が多いため、人出は減少している。街の活性化とどう結び付けていくかが課題である。
	×	一般小売店〔書籍〕（従業員）	・中東情勢の影響により幅広く値上げがあり、悪くなる要素しかない。
	×	乗用車販売店（従業員）	・オイルや部品等の価格が高騰しており、当分は厳しい状況が続くとみている。
	×	スナック（経営者）	・内外の社会変化により、ますますマイナス傾向になると考える。
	×	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（経営者）	・中東情勢の影響により景気は悪くなるとみている。
	×	住宅販売会社（営業）	・取引業者からの値上げ交渉が増えている。今後は中東情勢の影響による販売価格への転嫁が顕著になるとみられる。客の購買意欲にも間違いなく悪影響を与えると考える。
企業動向 関連	◎	-	-
	○	一般機械器具製造業（総務担当）	・工作機械の受注数は増加しており、今後もその傾向が続くとみている。ただし、中東情勢の影響が続いており、いまだ不安要素として拭い切れない。
	○	不動産業（経営者）	・2～3か月先のことであるが、法人客や個人客からの問合せが少しずつ入ってきている。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	・二輪車を含む自動車関連部品の受注状況は、4月以降順調に推移しており、9月まではおおむね計画どおりとなる見込みである。産業機械関連部品の受注に関しては、今月までは計画を上回るものの、来月以降は計画に達していない状況であるため、更なる営業活動の強化を図る。
	□	電気機械器具製造業（営業担当）	・2～3か月という期間で考えると、新規案件に関しては受注が未定の状況で、現時点では先がみえない。この後、新規案件の受注可否や詳細日程などに関して、客への確認を急ぎ、先々の動向を把握して見極めていく。
	□	建設業（経営者）	・公共事業の補正予算は想像以上に多かったが、引き続き中東情勢による影響が懸念され、資材価格は高騰するとみている。
	▲	繊維工業（総括）	・中東情勢の影響が長期化した場合、雇用の維持や企業の存続が危ぶまれる状況となる。
	▲	プラスチック製品製造業（広報）	・ナフサ不足が解消されたとしても、価格高騰は当面続くとみている。
	▲	建設業（役員）	・資材調達の見通しที่ไม่透明であることに加え、価格上昇基調がやむを得ない状況であり、今までのように受注を確保することは困難とみている。
	▲	輸送業（管理会計担当）	・一部の取引先では生産量が減少しているため、保管している在庫が減少しており、今後は出荷も含めて減少すると見込んでいる。
	▲	金融業（融資担当）	・当初の想定以上に中東情勢の影響が長引いており、中小企業の業績を圧迫している。物価高の加速、賃上げ、利上げに対して価格転嫁が追いつかず厳しい状況が続いており、景気が上向く要因が少ない。
	×	税理士（所長）	・6月までは持っている在庫で何とかしのげるが、7月以降の見通しが立たない会社が増え始めている。
	雇用 関連	◎	-
○		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人数が増加している。
□		人材派遣会社（営業）	・中東情勢が改善に向かいつつも、しばらくは変化しないとみている。
□		職業安定所（職員）	・中東情勢の影響による資材不足や商品価格の上昇について、不安を抱える事業者の声はあるが、雇用の部分には大きな影響が出ないとみている。
▲		人材派遣会社（役員）	・中東情勢の影響により、派遣先企業の生産量が減少し、新規派遣依頼数の減少や中途解除が出始めている。現在は半導体関連などの景気の良い派遣先企業からの依頼増加により、求人数は同程度だが、今後は減少傾向が強くなるとみている。
▲		職業安定所（職員）	・中東情勢の影響により資材の調達が困難となり、事業所からは既に生産活動に影響が出始めているという話や、今後生産調整が必要となるという声を多く聞いている。
×		-	-